



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレターNo. 123

2010年4月



来たれ、友よ！

(軍人キリスト者東アジア大会ちかし！)

コルネリオ会会長 今市 宗雄

軍人キリスト者の東アジア大会の開催が、本年9月2日～4日と間近になって来ました。

世界軍人キリスト者会のリー会長 (Lee Pil Sup) の励まし、また東アジア新会長 (Lee Kap Jin) の来日よりキリギス・カザフ・ウズベキスタン同胞への招へいも具体化し始めている現況です。

役員会も検討を重ね、やっと主の招きに近寄れつつあると感じています。

つきましては、会員の皆様に大会への献金と参加を是非お願い申しあげる次第です。奥様をはじめ、周囲の方も御誘い頂ければ幸いです。

正会員の現状は、年に三回発行のニュースレターを送付している方が約120名ですが、実活動をしているのは役員主体の10名足らずです。この際、恵みの一端をお返しすると同時に奉仕の庭に世界の友と降り立ってみませんか。大会のプログラムは、右記の通りです。

開催会場のマロウドインターナショナルホテル成田 (HomePage: <http://www.marroad.jp/>) へは、ホテルの無料シャトルバスが、JR・京成空港第2ビル駅(27番乗場)又はJR・成田空港駅(16番乗場)とホテル間を30分間隔で運行しています。(所要約10分)

今回、自衛官及びOBを対象に大会参加申込書をニュースレターに同封させていただきました。**4月30日までに**同封のはがきを返送くださいますようお願い申し上げます。

また、大会参加についてご不明な点やご確認されたい事項がございましたら、E-MAIL ([今市宛で](mailto:grziosomk@ybb.ne.jp)

grziosomk@ybb.ne.jp) で確認いただくか、または〒300-0607 茨城県稲敷市光葉 4-134 へお問い合わせ下さい。会員の皆様方が本行事に参加くださるとともにお祈りに覚え下さいますようお願い申し上げます。

大会日程表 (案)

時刻	9月2日 (木)	9月3日 (金)	9月4日 (土)
0600-0730	朝食		
0800-0900		グループ討議	討議結果発表
0900-0930		休憩	
0930-1030		講演 (I)	講演 (III)
1030-1100		休憩	
1100-1200		講演 (II)	証し 東アジア会長挨拶
1200-1300	受付 AMCF 会長挨拶	移動(昼食)	歓送昼食会 チェックアウト
1500-1730	各国報告	つくば	
1800-1900	歓迎夕食会	夕食	
1930-2100	宣教会行事 (※)		

※宣教会行事については変更の可能性もある。



大会会場

山上の垂訓と天国の法則

会員 石川 信隆

聖書：マタイ 5：3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人の者だからです。」

1. はじめに

昨年（2009年）11月イスラエルでの学会の折、ガリラヤ湖の近くにある山上の垂訓教会を訪れました。ここは、1938年フランススコ修道会によって建てられたそうで、マタイ 5：3-10にあるように、8つの祝福を意味する8角形の建物で、真ん中のドームはイエス様のために迫害されるための9番目の祝福「マタイ 5：11-12」を象徴しているそうです。

その場所に来たとき、ユダヤ人（トビヤという名前）のガイド兼運転手が英語の聖書を取り出し、私に読んで一緒にいった友人に訳すように言われました。

1. Blessed are the poor in spirit, for theirs is the Kingdom of Heaven.
2. Blessed are those who mourn, for they shall be comforted.
3. Blessed are the meek, for they shall inherit the earth.

ここで、meek（柔和な者）の意味が分からなくなり、「ああ、日本語の山上の垂訓をきちんと暗記しておけばよかった」と恥をかいてしまいました。

2. 天国の法則

今年1月3日礼拝後、家内と教会の姉妹と3人で雪の軽井沢での新年聖会（平野耕一先生）に参加してきました。今回は、「天国の法則」というテーマで、山上の垂訓のみ言葉が語られました。

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」

ここで、心の貧しい者とは、「自分が霊的に貧しいことを知っている人で、神様に物乞いする人」という意味だということです。私たちには、プライドがあります。私もクリスチャンになる前は「いまさら神様に頼らなくても、自分の力で生きていける」。「神に頼るのは弱い人、教会に行くのは何か困った人のすることだ。自分で努力すれば、何とかなる。神など必要ない」と、

そう思っていました。

しかし、イエス様は、「人間の力には限界がある。それを認めて、全知全能の神様に頼るのが、心のこじき、神さまへ物乞いをする事だ。」とおっしゃっています。すなわち、「我を張って生きることはやめ、素直な心で、謙虚に、神さまの憐れみや他の人のお世話にすがって生きる事」。

また「自分には罪があり、限界のある存在だと認めて、悔い改めて、神様の支配の下で生活をする、自分のプライドを捨てて、神様に一任して生きる」。そういう生き方をする人は、この世にあって既に天の御国で生きている人であり、幸せな人生を歩む人だ、というのです。そういう人には、「天の御国が侵入してくる」というのです。最初、この「天の御国が侵入してくる」という意味がよく分かりませんでした。家内と話し合ううち、天国とこの世との境目のカーソルがこの世（現在）の方へ移動してくる意味だということが分かりました。金持ちが天国に入るのが難しく、貧しいラザロが天国に入ったように、天国の価値観と、この世の価値観とは逆になっています。すなわち、イエス様を信じる心の貧しい人にとって、「神の国はあなた方のただ中にある。（ルカ 17：21）」というのです。



山上の垂訓教会

3. 霊的健康診断

最近、リック・ウオーレンの「Purpose Driven Life(人

生を導く5つの目的)」という本を読みました。この本の中に「靈的成長日記をつけるように、また自分自身の靈的健康診断をするように」と書かれていました。モーセはイスラエルの靈の旅路を記録したそうで、書くことによって、神様が自分の人生の中でなさっていることが明確になるということで、私もこの靈的日記と靈的健康診断をはじめたいと思いました。体の健康診断は、血圧、血液、エコー検査など定期的に医者に測定してもらっていますが、靈的健康診断も、礼拝、交わり、成長(弟子訓練)、奉仕、伝道など5つの分野を定期的にチェックする必要があると思いました。毎朝家内との日々のみ言葉を用いたデボーション、土曜日の早天祈祷や信徒学校での学び、月1回コルネリオ会の例会、テモテ会(韓国軍人との交わり会)、月1回壮年会での学び、週1回英語の Bible Study など。それに、新年聖会、夏の松原湖聖会などを通して、靈的

健康診断をしたいと思っています。

4. 今年の抱負

今年9月2日-4日には、コルネリオ会主催で、「軍人クリスチャン東アジア大会」という8年に1度日本で開催される大きな大会のために、現在今市会長を中心に準備しており、韓国、台湾、モンゴル、ウズベキスタンからも参加が予定されています。私は、観光案内やVIPの接待役を仰せつかっています。また馬堀聖書教会では、韓国からきた防衛大留学生によって賛美が盛り上がり、靈的に成長しています。私も靈的日記をつけると共に、靈的健康診断を行い、心が貧しいかどうか、天の御国が私の心に侵入しているかどうかを診断し、心楽しく神様の目的のために仕えたいと思います。

良い習慣

会員 伊藤 忠臣

一ヒルティ著、草間平作訳 「幸福論」岩波文庫から抜粋
ものを考える人なら誰でも、自分が修養したり、または他人を教育する場合に、遅かれ早かれ、一度はしなければならぬきわめて重大な経験がある。それは全ての行為が、否、もう一歩進めて言えば全ての思想が、それが考え出された時は既に、いわば有形的な印象を後に残して、次に起こる同じような行為や思想を容易にし、同じでないものを困難にする、という傾向をもつことである。

「悪は必ず悪を生む。これこそ悪の呪いである」〔シラー〕〔列王記上21:20、25〕

それと同じように善行に必ず付随する主な報酬は、善は常に善を生み、こうしてその善行者にいつまでも続く利益を与えるのである。

一度起こったことはもはや絶対に変更されない〔永久にそのままである〕ということは実に恐ろしい事であって、これがいつも人間生活の悲劇的背景となっているのである。だから真実の歴史もまた、常に悲劇的性格を帯びていて、めでたしめでたしで終わるものではないのである。

一われわれはなるほど罪の許しを信じているが、しか

しそれはあの世での勘定のことである一

人生をいったんこのように真面目に考え始めるならば、大切な問題は、単に思想や信仰ではなく、まして外面的な信仰告白やただ教会に所属しているというようなことではなく、本当に大切なのは、何よりも習慣の問題である。

教育の目標とするところは、善への性向を持つ人間を育てることである。望ましいのは、いろいろ考えなくても即座に、善を実行する傾向である。人間生活の理想は、全ての善は習慣的に自明であり、全ての悪はその人の本性に反する為に、殆ど肉体的に不愉快な印象として感じられる。というような生活である。このようにならない限りいわゆる徳も信心も、全てまだ良い意図に留まり、実際には善の道に通じると同じように、悪の道へも通じるのである。

此処で生活上の最も優れた良い習慣とは、どのようなものか述べる。

- (1) 第一の主要な規則：我々は消極的に悪い習慣を捨てようと努力するよりも、むしろ良い習慣を

養うように心掛けねばならないということである。この場合大切なことは、いつでも行動に出られる**即座の決心**である。

マタイ 6 : 33 - 34

(2) 第二の点は、**恐怖心**を持たないこと。恐怖の感情は、人間のあらゆる感情の中で最も不愉快であり、だからぜひともこの習性から逃れなければならない。

— 宗教的な無恐怖は「神は与えるがゆえに与えたもう」。(神は既に救われた者を見棄てになることはない)

— 哲学的根拠に立つ、最も良い恐怖の予防法は、あらゆる恐怖は同時に又、我々の内部になにか正しくないものがあるということの証拠だと確信することである。それを探し出して取り除くと良い。たいてい恐怖は消えてなくなるものである。

(3) 恐怖の動機となるのは通常、人生の財宝の問題である。だからなるべく早く、年若い頃につまらぬ物よりも少しでも勝った物を選ぶ習慣、すなわち相容れない二つのものを同時に**求めない習慣**を養うべきである。「失敗した人生」の欠点は全て、この二兎を追う寓にある。

(4) 名誉やいわゆる享楽のみを追っていると、人は結局、第三者に従属する奴隷になってしまう。だから我々は直ちに**愛**をもってこれに代えねばならない。愛は、それらと違って、何時でも我々が自由に扱う事の出来るものである。

マタイ 12 : 43 - 45

我々はどんな代価を払っても、我々の為に習慣的に、全ての人々を愛するように勤めなければならない。人々が愛に値するかどうかは問うことなしに。中途半端はだめである。あらゆる小利口さを捨てた全面的な一大決心が有効である。憎まねばならぬのは何処までも物であって、決して人ではない。又諸君は理屈によっても経験によっても、何によっても、愛を退けてはならない。

第 I コリント 13 章

(5) 全ての人に、一様に親切であることは、結局出来ないことだ。では最初は、常に先ず、この世

の弱者、貧しい人、愚かな人、教養のない人、子供達(動植物さえも)のことを思って、決して反対に、立派な人たちを先に立ててはいけない。むしろ彼等への愛を、君自身の愛と同じように尊重するならば、そのとき君は心に幸福を感じるだろう。

よい習慣を実行することについての困難は、自然の我欲を心から取り除くことである。「善と正とに人を導き、精神的に健康ならしめる力、正しい生活航路にぜひとも必要なことを何処に見出したらよいのか」。

— 厳密に言えば、人間の生活において真に大切なものは決して理論ではなく、又信仰でも、愛でもない。むしろ**信仰すること、愛すること**が出来るということである。—

信仰する 第 II コリント 10 : 15 (育ち)

ローマ 4 : 20 - 21 (全うされ)

マルコ 9 : 23, 16 : 20 (奇跡的な力)

使徒 16 : 31 (人を救う)

愛する 第 II コリント 13 章 (愛)

〈お願い事項〉

- 1 アジア大会の参加申込書のはがきは自衛官及びOBの方を対象として同封しています。同封されていない方で、参加をご希望される方は、会長の今市までお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- 2 アジア大会を支援してくださるボランティアの方々がおられましたら情報提供をよろしくお願いいたします。
- 3 6月12日(土) 1100~1600に大会会場となるマロウドインターナショナルホテル成田にて2010年度の総会とアジア大会の打ち合わせを実施いたします。奮ってご参加ください。

献金感謝 (2009. 12. 1-2010. 3. 31)

いつもコルネリオ会を覚えていただき感謝致します。

今市宗雄、西澤邦輔、江別喜介、伊澤勲、花井米男、石川信隆、柳澤二郎、武宮啓夫、佐藤征江、飯塚正実、谷岡博志、玉井佐源太、圓林栄喜・さゆり、下桑谷玲子、川村功、吉田好里・美枝子、山下和雄、岡田久忠、井坂玲子、加瀬典文・真弓